

平成28年度 第1回 高槻市中心市街地活性化協議会 会議録

日 時：平成28年11月15日（火）午後2時～3時
場 所：高槻商工会議所 3階 第1・2会議室
出席者：協議会会員20名
事務局：高槻商工会議所、高槻都市開発株式会社
市担当課：高槻市産業振興課

1 開 会

(1) 定足数の報告

会員総数27名中出席者20名で、規約第7条第4項により定められた定足数（過半数14名）を満たしている旨が報告され、「平成28年度 第1回高槻市中心市街地活性化協議会」が有効に成立していることが確認された。

(2) 副会長挨拶

高槻市中心市街地活性化協議会 副会長 木ノ山雅章 氏

(3) 高槻市副市長挨拶

高槻市 副市長 石下誠造 氏

2 構成員の変更について

(1) JR高槻駅北東地区開発事業まちづくり協議会の脱会について

構成員であるJR高槻駅北東地区開発事業まちづくり協議会より、事務局を通じて、本日をもって中心市街地活性化協議会から脱会したいとの申し出があった。

脱会の理由について、JR高槻駅北東地区都市開発事業が本年をもって完成し、また平成31年にはJR高槻駅北東地区開発事業まちづくり協議会が解散する予定であるなか、中心市街地活性化協議会における一定の役割を果たしたことから、規約第5条第3項に基づくものであるとの説明があった。

申し出について出席者から異議はなく、脱会が承認された。

3 新たな中心市街地活性化基本計画（素案）について

事務局説明

(1) 第2期中心市街地活性化基本計画策定について

人口が減少に転じ少子高齢化が進む中で、中心市街地活性化制度が目指すところは、都市機能をコンパクトなエリアに集約し、持続可能な都市を実現させ、同時に

経済活力を向上させることにある。本市は本制度に基づき、中心市街地活性化協議会の意見をふまえて中心市街地活性化基本計画を策定する。本計画が内閣府の認定を受けると、計画に定めた取組に対して国から集中的な支援を受けることができる。

計画の策定にあたっては、庁外においては本協議会に連なるワーキンググループや個別ヒアリングで課題を整理する一方、庁内においても検討を進め、最終的には、本協議会に諮っていくという体制をとっている。

計画は、今年 11 月に内閣府に素案を提出する。12 月にはパブリックコメントを実施して市民の方からも意見を募集し、それを計画に反映して来年春には内閣府に本申請を行い、6 月に認定を受けることを目指している。

(2) 新たな中心市街地活性化基本計画（素案）について

計画の前半では高槻市の現状を分析している。中心市街地の人口を見ると、前計画における JR 高槻駅北東地区の開発効果もあって人口は増加し、コンパクトシティ化が進んでいるものの、市の全域で見ると人口は減少している。また、中心市街地内の商業についても、年間販売額、商店数ともに減少をしており、厳しい状況が続いている。

このような課題を踏まえ、今回の計画を策定する。対象区域について、前計画からの大きな変更点として、京都大学農場跡地に整備する安満遺跡公園を追加し、新たな都市機能を整備する。

中心市街地活性化計画の方針は前回の協議会において諮ったが、その後、課題をさらに具体的に検討したうえで、見直しを行った。

前計画の結果、JR の北側においては歩行者が増加したものの、JR の南側では減少傾向にある。これを踏まえ、まちに来たいと思わせる動機付けを行うとともに、まちなかを歩き回りやすくする仕組みをつくることを方針とした。来街機会の増加と回遊性の向上という目標を設定し、歩行者・自転車通行量と、城跡公園にて新たな集客拠点として建て替え、整備する新文化施設の利用者数を指標とする。

また、若い世代を中心に、買い物を中心に市外で行っているという調査結果もあり、中心市街地で提供される商品・サービスがニーズに合致していないという課題が明らかになった。そのため、魅力ある個店の育成や、新たな店を増やしていくことで商店街・商業施設の活性化を図りたい。経済活力の増進という目標に対し、魅力的な店舗の出店数や小売業年間商品販売額を指標とする。

事業展開としては、前計画で整備が進んだ JR 高槻駅北東地区のにぎわいを起点に動線を強化して南北の人の流れにつなげるとともに、新たに安満遺跡公園を整備することで東西の人の流れをつくりだす。こうした人の動きをまちなかの商業の活性化につなげていく。計画では、具体的な事業を示し、その効果を定量的な目標として示している。

また、中心市街地活性化協議会の構成や開催状況等についても、計画に記載する。

事務局の説明に対する各委員からの意見・質問

ーなしー

4 各会員からの情報提供

(1) 高槻センター街商店街振興組合 理事長 木ノ山雅章 氏

前計画では JR の北側において再開発が進み、南側では駅前のデッキ等が整備された。また、阪急から商店街への人の流れをつくることも考えてきた。それぞれの商店街、商業施設が個々に考えるのではなく、面として考えていかないと集客ができないだろう。

また、前計画では、商業だけではなく医療や文化とも一緒になって考えてきた。本計画においても安満遺跡公園や市民会館など、文化を取り入れて総合的に高槻市の中心市街地を発展させていきたい。

一方、まちなかの人は増えてきたが、買い物はしてもらえていない。商店街としては、これまでのお客さんだけでなく、集まってきているいろいろな人を取り込んでいきたい。地域の人だけでなく、新たな顧客の確保を目指してイベントなどを行っている。

関西大学や病院ができ、歩いている人の顔ぶれがかわってきた。これをうれしく思っている。前計画の成果は出てきている。これを大きくしていきたい。

(2) 高槻市場協同組合 理事長 下村義明 氏

高槻市場は昭和 2 年創業で、市内で最も古い市場である。現在の建物は 50 年前に建てられたもので、老朽化が進み、耐震性に問題がある。

そこで隣接する豊都ビルと共同で建て替える計画することとなり、高槻グランド 21 協議会を設立して進めているところである。計画では 14 階建ての施設を考えており、現在、地権者との合意に向けて進めている。

実施にあたっては、中心市街地活性化協議会や国の支援を得たいと考えている。事業を成功させ、活性化に役立ちたいので、ご協力いただきたい。

(3) GP1・入店者会（グリーンプラザたかつき 1 号館入店者会）会長 杉岡宗雄 氏

JR の北側の再開発は概ね完了した。南側は駅前がきれいになったものの、活性化はまだまだであることから、松坂屋、野村證券と一緒に今後の駅前のあり方に関する勉強会を始めた。

高槻は、大阪、京都まで往復 500 円ほど、およそ 15 分で行くことができるが、こ

れは商業者からみると便利すぎる場所がある。こうした環境のなかで、どうまちづくりをしていくかを我々は考えないといけない。

先日、高槻市商店街連合会の研修に商工会議所の金田会頭に参加していただいた際に、商業の発展なくしてまちの発展はないという話があった。これからは南側の活性化をよろしくお願ひしたい。

5 閉 会

(1) 高槻市挨拶

高槻市 産業環境部長 新美英代 氏